

令和 6 年(2024 年)第 2 回 登録標識・路面標示基幹技能者講習(路面標示) 修了試験問題

修了試験実施日：令和6年(2024年)11月8日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り、カバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から 30 分が経過するまで及び試験終了 10 分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約 1 週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和 6 年(2024 年)12 月 6 日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

【基幹技能者一般知識】

問 1

登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者は、公共工事における総合評価落札方式において評価・活用されている。
- ② 登録基幹技能者は、経営事項審査において加点評価の対象とならない。
- ③ 登録基幹技能者は、建設企業の優良技能者認定制度において評価・活用されている。
- ④ 登録基幹技能者は、監理技術者として認められていない。

問 2

建設キャリアアップシステム(CCUS)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者の能力評価は 4 段階で評価され、配布されるカードの色は、白、青、シルバー、ゴールドの 4 種類である。
- ② 登録基幹技能者は、能力評価基準の最高位要件の資格として位置付けられている。
- ③ 登録基幹技能者は、CCUS 情報を活用した能力評価とレベルごとの年収目安の明確化による賃金水準の相場感の形成が図れる。
- ④ 下請業者は、自社が雇用する技能者数や保有資格、賃金水準等が明らかになり、取引先からの信頼が得やすくなる。

問3

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 安全管理に係る基本的な知識を有し、作業手順書の作成、SDGs への取組、作業改善等の一連の安全管理活動ができる。
- ② 職務に係る技術提案等を積極的に行い、全体の成果に結びつけることができる。
- ③ 不測の事態の発生に対応する修正工程の立案ができる。
- ④ 未熟練な作業員から一般の作業員へレベルアップさせるOJTを行う能力を有する。

問4

OJTに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① OJTにおいては、教える相手に対して、何をどの程度教えるのか把握した上で指導することが重要である。
- ② 目標は、定量的で具体的であり、設定期間終了時に評価が可能であるように設定する。
- ③ OJTは、その実施により業績低下が生じるのはやむを得ない。
- ④ OJTは、組織風土の枠内での能力開発になりがちである。

問 5

働き方改革に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 残業時間は、原則として月 45 時間かつ年 360 時間を上限とする。
- ② 年 10 日以上の有給休暇が付与される者は、3 日以上を取得が義務付けられている。
- ③ 大企業に求められていた月 60 時間超の残業割増賃金率 50%は、現在は中小企業に対しても適用される。
- ④ 同一企業内において、正社員と非正規社員の間で、不合理な待遇差を設けることは禁止されている。

問 6

特定元方事業者等の講ずべき措置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 会社経営者は、労働災害に関し、民事損害賠償責任を問われることがあるが、刑事責任についても問われる場合がある。
- ② 日常の作業に潜む危険を予知すること、つまり、常識の範囲内での危険予知、危険防止対策を怠ったときに問われる責任が、債務不履行責任である。
- ③ 明確に労働安全衛生法違反がなければ、安全配慮義務違反として債務不履行による賠償責任が課せられることはない。
- ④ 重要な労働災害を発生させた場合、公共工事における競争参加資格停止や営業停止処分が課せられる。

問 7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路管理者は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。
- ② 道路標識及び区画線は、道路附属物として定められている。
- ③ 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の危険を防止するため、区間を定めて、道路の通行を禁止し、又は制限することができる。
- ④ 道路管理者は、交通の安全と円滑を図るために必要があると認めるときは、区間を定めて、もっぱら自転車の一般交通の用に供する道路の部分を指定することができる。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 公安委員会は、道路の交通に起因する障害の防止に資するため、交通の規制をすることができる。
- ② 公安委員会は、道路運送法の自動車道において、交通の規制をすることができる。
- ③ 教育委員会は、小学校に通うための道路に限り、横断歩道を一部設けることができる。
- ④ 道路管理者は、交通の安全と円滑を図るため、必要な場所に道路標識又は区画線を設けなければならない。

問 9

標識令の変遷に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 30 年、「タイヤチェーンを取り付けていない車両通行止め(310 - 3)」標識が新設されると同時に、画像表示用装置に道路標識を表示することが可能となった。
- ② 東京オリンピック開催に伴う「大会関係車両等専用通行帯」を表示する規制標識及び規制標示は、期間を限定して使用するため附則で規定された。
- ③ 令和 5 年、遠隔操作型小型車(自動配送ロボット等)は歩行者と同様の交通ルールが適用されることになった。
- ④ 「歩行者横断禁止(332)」標識は「歩行者等横断禁止」に名称が変更され、標示板の文字「横断禁止」を「わたるな」に変更になった。

問 10

標識令の変遷に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 特定小型原動機付自転車(電動キックボード等)は、原則、原動機付自転車として車道を通行しなければならない。
- ② 「自転車専用(325の2)」は「特定小型原動機付自転車・自転車専用(325の2)」に名称が変更となった。
- ③ 令和 5 年、規制標示「普通自転車歩道通行可(114の2)」は「特定小型原動機付自転車・普通自転車歩道通行可(114の2)」に名称が変更となった。
- ④ 令和 6 年、信号機の無い横断歩道は、道路標示及び道路標識の設置が必要であったが、交差点内の内側の標識及び一時停止標識が設置されている場合は横断歩道標識の設置を省略できることとなった。

問 11

安全で快適な自転車利用ガイドラインに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 交通状況を踏まえた整備形態の選定は、自転車道、自転車専用通行帯、車道混在に分けることができる。
- ② 車道混在とする場合、自動車に注意喚起するための矢羽根型路面表示、自転車のピクトグラムを設置するものとする。
- ③ 自転車専用通行帯の場合、規制標示「車両通行帯(109)」に併せて規制標識「特定小型原動機付自転車・自転車専用(325の2)」を設置するものとする。
- ④ 自転車専用通行帯の整備完了後は、従前の歩道の「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車歩道通行可」の交通規制を解除するものとする。

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

問 12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工計画は、契約条件や仕様書、設計図書に基づき、品質、原価、工程、安全、環境保全に対する管理方法を総合的に計画したものである。
- ② 適切に施工管理を行うためには、計画(Plan)、実施(Do)、処置(Action)の3段階のサイクルを繰り返し実行することが基本となる。
- ③ 施工計画の作成では、発注者の要求する品質を確保するとともに、安全を最優先とした施工を基本とする。
- ④ 原価と品質の関係は、品質を良くすると原価は高くなり、品質を下げると原価は低くなる。

問 13

環境保全に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設工事における苦情は、騒音が6割、振動が3割となっている。
- ② 登録基幹技能者は、振動・騒音の発生抑制に努めなければならない。
- ③ 振動規制法及び騒音規制法により、特定建設作業を伴う建設工事を施工する者は、作業開始日の7日前までに、市町村長に届け出なければならない。
- ④ 地域住民への説明会は、工事着手前に地区自治会等を通じて行い、工事の目的、内容、環境保全対策等について説明し、地域住民との合意を図る。

問 14

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業手順書は、登録基幹技能者や安全衛生責任者よりも元請が作成することが望ましい。
- ② 作業手順書は、新入社員や未熟練作業員に安全で正確に早く教えるために必要なものである。
- ③ 作業手順書は、定期的に見直し、重要な事項について関係作業員に教育訓練する必要がある。
- ④ 段階法による作業手順書の作成は、以下のとおりである。
 - 1.作業を決める
 - 2.作業内容を分解し、主なステップを決める
 - 3.主なステップを検討し良い順序と急所を決める
 - 4.作成された作業手順を評価・確認する

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 工程計画は、施工計画の中でも重要な計画である。
- ② 下請の場合、期限内に自社の工程が効率的に行えるように元請及び他業者と調整の上、工程を計画・管理することが重要である。
- ③ 1日当たりの平均施工量は、
工事量/作業可能日数 で算定する。
- ④ 作業可能日数は、天候により作業できなかった日も含まれる。

【原価管理】

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示における文字・数字の所要材料換算長は、重複施工する部分を平均15%と見込み、それを施工実延長に加えた値を材料の使用量として算出する。
- ② 原価管理のスタートは、発注者と契約するために見積書を作成することである。
- ③ 実行予算は、自らが施工するにあたり原価管理を行うために作成するものである。
- ④ 登録基幹技能者が原価管理を適正に行うためには、材料費、労務費、外注費、経費などの原価要素を正しく理解する必要がある。

【品質管理】

問 17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 高品質は、品質の高い工程を積み重ねることによって実現する。
- ② 建設物は、その品質を維持する仕組みを持つ必要がある。
- ③ 登録基幹技能者は、作業標準書を熟知し、施工チーム内にその内容を伝達する。
- ④ 以前施工したことがある現場の場合、作業手順書は前回のものを使うと効率的である。

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① ISO(国際標準化機構)は、国際的に規格を標準化することで経済活動の活性化を目指している。
- ② JIS(日本産業規格)は、産業標準化法に基づき制定される日本の国家規格のことである。
- ③ 路面標示材の JIS は〔JIS K 5665:2018〕で、化学部門に属している。
- ④ 路面標示用塗料の品質における塗膜中の鉛の定量は、1種2種3種ともに 0.06%以下となっており、白色黄色共通である。

【安全管理】

問 19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示施工時の安全管理としては、火気取扱い、粉体の取扱い、有機溶剤の取扱い等それぞれに応じた安全対策を行う。
- ② 安全指示をうまく伝えるためには、ポイントを絞り、的確にするとよい。
- ③ 公道におけるフォークリフトでの荷役作業は、その車体にナンバープレートの交付を受けていけばよい。
- ④ 路面標示施工における熱中症対策は昼間だけでなく夜間作業も対象となる。

問 20

安全対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路管理者が発注した道路に区画線施工をする場合、道路使用許可又は道路使用協議の申請は不要である。
- ② 公道上での作業は、作業帯内に通行車両の進入を防止するため、囲い、柵、ガード等の保安設備を設置し、誘導員を配置する。
- ③ 作業員への安全教育により、安全水準、安全意識の向上を図る。
- ④ 設備面の対策や監視員を配置するなど労働災害に繋がらない対策を講じることが重要である。

【路面標示の設置】

問 21

路面標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示は、一定の様式化された線及び文字、記号を路面に設置することにより、交通の安全と円滑を確保し、併せて道路構造物等の保全を図るために設けることを目的としている。
- ② 区画線のうち「車道中央線(101)」、「車線境界線(102)」は、それぞれ道路交通法の「中央線(205)」、「路側帯(108)」とみなされる。
- ③ 路面標示の様式、設置者の区分、設置場所、その他必要な事項は、標識令に規定されている。
- ④ 路面標示は、大別して区画線と道路標示からなり、主として区画線は道路管理者が、道路標示は都道府県公安委員会がそれぞれ設置する。

問 22

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「直角駐車」は規制標示である。
- ② 「歩行者横断指導線」は区画線である。
- ③ 「進行方向」は指示標示である。
- ④ 「平行駐車」は、区画線である。

問 23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 通常車線において、特例で高速かつ大型車が多い場合の幅員は、4.0mである。
- ② 車線幅員の取り方で、「車線境界線(102)」は、その線の中心から車線をとる。
- ③ 車線幅員は、登坂車線、屈折車線及び変速車線を除き 2.75m、3.00m、3.25m、3.50mの4段階と定めている。
- ④ 「横断歩道(201)」を設置する場合の原則としては、曲線部又は縦断勾配等の見通しが悪い場所には設置しないことが望ましい。

問 24

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 交通処理上、中央線を強調する場合又は4車線以上の道路では、二重実線を用いても良い。
- ② 「車道外側線(103)」は原則として車道幅員が 2.75m 以上の道路に設置する。
- ③ 交差点部における設置計画においては、付加車線、特に右折車線は積極的に設置すべきである。
- ④ 「横断歩道(201)」の設置は、歩行者を無用に迂回させることなく、流れがスムーズになるように設置する。

問 25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車道中央線(101)」は中央を示す必要がある車道の中央に設置し、白色の実線と破線がある。
- ② 一般に「車線境界線(102)」には破線が用いられるが、道路の屈曲部等の追いつ越しを禁止することが交通安全上必要な箇所は実線とする。
- ③ 路面標示塗料による標示が困難な場合は、道路鋳、石又はこれに類するものにより設置する。
- ④ 「路上障害物の接近(106)」を表示する場合は、路上障害物の長さ(d)より片側最低 20cm 両側最低 40cm 長い値として設置するのが望ましい。

問 26

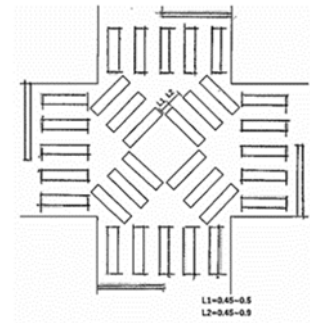
道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「転回禁止(101)」を設ける場合は、原則標示で必要に応じ標識を設置する。
- ② 「最高速度(105)」は、法令で定める最高速度と異なる速度の指定を行う場合は原則的には道路標識で行うが、必要がある場合には、道路標識に代え、又はこれに併せて道路標示を設置する。
- ③ 路線バス等の優先通行帯を設ける場合は、道路標識の設置を原則とし、併せて道路標示「路線バス等優先通行帯(109の7)」を設置する。
- ④ 「普通自転車の交差点進入禁止(114の4)」を設置する場合は、道路標識の定めがないため、道路標示のみを設置している。

問 27

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 歩行者が一度に渡りきるべき横断歩道の長さは、最大で 15m程度とすることが望ましい。15mを超える場合は、横断歩道の中間に安全地帯を設けることが望ましい。
- ② 車両を安全かつ円滑に一定の進路に誘導するための「導流帯」のゼブラは、原則として進行方向に対し 30°、45°又は 90°とする。
- ③ 「斜め横断可(201の2)」のうち、右の図は、時間を指定して行う場合の表示方法である。
- ④ 「安全地帯(207)」は標準規格が指定されており、外枠は黄色、内枠は白色である。



【路面標示の材料・施工】

問 28

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)1種・2種の耐摩耗性に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか

- ① 摩耗減量が 100 回転で 500mg 以下。
- ② 摩耗減量が 100 回転で 300mg 以下。
- ③ 摩耗減量が 200 回転で 500mg 以下。
- ④ 摩耗減量が 200 回転で 300mg 以下。

問 29

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種 A(常温)塗料の低温造膜性試験では -5°C 条件で貯蔵した塗料を標準状態に戻して均一な状態であることを調べる。
- ② 常温塗料は一般的には密度が大きいと施工距離が短くなる。
- ③ 常温及び加熱塗料の隠ぺい率試験では路面標示の色の鮮明度や視認性の低下程度を調べる。
- ④ 1種 B(常温)塗料の耐アルカリ性試験は、セメントコンクリート舗装及び路面凍結防止剤に対する試験である。

問 30

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 2種(加熱)塗料の黄色は、警察庁指定の道路標示黄色「道路標示黄色色見本(マンセル参考値 5.5YR6.5/12)」によるものとされている。
- ② 2種 B(加熱)塗料は、有機化合物を主な揮発成分とするビヒクルを用い、塗料中にガラスビーズを含まず加熱して施工する。
- ③ 2種 B(加熱)塗料のタイヤ付着性試験では概ね 15 分後にタイヤに付着しないことと規定されている。
- ④ 2種 B(加熱)塗料の隠ぺい率(%)は、白色が 97 以上、黄色は 80 以上と規定されている。

問 31

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示塗料1種の加熱残分(質量分率%)は、60%以上である。
- ② 路面標示塗料2種の加熱残分(質量分率%)は、65%以上である。
- ③ 3種(熔融)塗料の黄色度は、黄色塗料の熔融加熱時における変色度合いを判定する基準である。
- ④ 3種 2号(熔融)塗料のガラスビーズの含有量は 20～23%と規定されている。

問 32

路面標示用ガラスビーズ(JIS R 3301:2014)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① JIS 規格の路面標示用ガラスビーズの比重は 2.4～2.6 である。
- ② 路面標示用ガラスビーズは粒度によって区分し、1号、2号、3号の種類に分類される。
- ③ 屈折率 2.0 以上のガラスビーズは、湿潤時に再帰反射性能が低下する。
- ④ 路面標示用ガラスビーズの外観は、球形の粒子であり、だ円、鋭角、不透明、異物等の混入率は、20%以下と規定されている。

問 33

路面標示塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 新設アスファルトの場合は、クラック防止のため1週間程度経過後に塗装するのが望ましい。
- ② 水系型路面標示工法は、VOC(揮発性有機化合物)を大幅に削減し環境負荷を低減できるが、低温時の施工、降雨時等天候の制約が避けられない。
- ③ 常温式工法と比べ加熱式工法では厚い塗膜が形成され、ガラスビーズの固着性に優れ、耐久性を有し速乾性である。
- ④ 2種(加熱)塗料は高粘度であるため、熱交換機を通して A は 40℃～60℃、B は 50℃～80℃に加熱し、粘度を低くして塗装する。

問 34

路面標示塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 高視認性路面標示は、雨天時の夜間においても良好な視認性を保ち、かつ経済的で耐久性のある路面標示工法である。
- ② 熔融式工法では、道路に塗装した後約3分以内に交通開放できる速乾性を要求される。
- ③ 常温・加熱式工法で、異常に薄膜施工した場合、クラックが発生することがある。
- ④ 3種(熔融)式施工における塗膜表面仕上がり不良(縦すじ)は、スリットの摩耗による傷などが原因と考えられる。

問 35

路面標示の点検・塗り替えに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 点検の第一の目的は、管理する路面標示の変状を早期に発見することであり、第二の目的は、変状の程度の把握を行うことである。
- ② 規制標示及び指示標示は、交通規制を実施する場合の具体的な意思を表示する手段であるため、常に良好な視認性を保つことは、不可欠の条件である。
- ③ 積雪地域等で融雪後毎年塗り直しが必要となる道路では、経済性より耐久性を考慮して工法を選択する必要がある。
- ④ 点検項目として、剥離、汚れなどによる不鮮明部分の有無などがある。

問 36

路面標示の塗り替え基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 目視評価ランク5の評価内容は「健全」であり、標示全体が維持されており、摩耗が少なく、剥離が見られない状態である。
- ② 目視評価ランク3の評価内容は「早期措置段階」であり、摩耗又は剥離により、標示の中に舗装路面の露出、経時による表面の劣化、割れ、クラックが見られる状態であるため塗り替えが望ましい。
- ③ 溶融型の路面標示は、通常 1.5mm から 1.7mm の厚さで施工しているが、目視評価3では、路面の不陸(凹凸)を考慮しても 1mm 前後は摩耗している。
- ④ 拡散反射率とは、路面標示の視認性、塗膜の明るさの程度を判定する指標であり、黄色標示の明るさを評価するものである。

問 37

路面標示の耐久性調査に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 調査項目としては、交通量による摩耗度の違い、舗装種別による違い、大型車混入率による違い、気象条件や積雪による影響などがある。
- ② 路面標示の経時変化による摩耗と耐久性についての調査データは、現在のところ少ない。
- ③ 耐久性調査を実施する際の調査箇所は、道路交通センサスの交通量が公表されているので、当該センサス対象路線から抽出することが望ましい。
- ④ 密粒舗装と排水性舗装における路面標示の摩耗度の変化は、密粒舗装の方が早く摩耗が進んでいく傾向にある。

問 38

路面標示の消去及び調査に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 切削法は、物理的消去方法である。
- ② 黒ペイント塗布は、化学的消去方法である。
- ③ 燃焼法は、化学的消去方法である。
- ④ ブラスト法は、物理的消去方法である。

【法定外表示等の設置】

問 39

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 法定外表示等とは、標識令や関係法令で定められたもの以外の路面表示やカラー舗装、看板類で、交通の安全と円滑を図るために設置するものをいう。
- ② 「交差点クロスマーク表示」は、中央線のない道路が交差する十字路又は丁字路交差点で、道路の交差が不明確な場合には設置しない。
- ③ 法定外表示等の設置・管理等に当たっては、各都道府県警察と道路管理者とで設置内容や設置主体等を含めて調整を図る必要がある。
- ④ 「ハンプ路面表示」は、車両進行方向のハンプすりつけ部に配置することとし、一方通行の道路においては、中央付近に路面表示を設置する。

問 40

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「標準仕様を定める法定外表示」については、道路状況、地域特性等に応じて仕様と異なるものも認められている。
- ② 「標準運用を定めるカラー舗装」の運用には、バスレーン関係や、歩行者等保護のためのカラー舗装がある。
- ③ 「ドットライン表示」は、優先関係が明確でない交差点部には設置しない。
- ④ 「減速を促す路面表示」の色は、道路形状に応じて白又は黄色を用いる。

問題は以上です

登録標識・路面標示基幹技能者講習 解答用紙

2024-2路面標示

受講番号

氏名

共通は標識にリンク

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
2	4	1	3

【建設業法・安衛法】

5	6
2	3

【道路法・道路交通法】

7	8
2	3

/8

【標識令改正】

9	10	11
4	3	3

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
2	1	1	4

/7

【原価管理】

16
1

【品質管理】

17	18
4	4

【安全管理】

19	20
3	1

/5

共通 合計

/20

【路面標示の設置】

21	22	23	24	25	26	27
2	4	1	2	4	1	3

/7

【道路標示の材料・施工】

28	29	30	31	32	33	34
1	1	3	3	3	1	3

/7

【路面標示の維持管理・塗り替え基準】

35	36	37	38
3	4	4	2

【法定外表示の設置等】

39	40
2	4

/6

専門 合計

/20